

# AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録(2013.03) 平成22年度追補:24-27.

全人工股関節置換術患者に対する術前指導DVDの効果

金 誠治、清水直人、大坪恵美、佐藤菜穂美、原谷俊治、  
久保千夏

# 全人工股関節置換術患者に対する術前指導 DVD の効果

8階西ナーステーション 金 誠治、清水 直人、大坪 恵美  
佐藤菜穂美、原谷 俊治、久保 千夏

## 【はじめに】

A 病棟では 2003 年全人工股関節置換術（以下 THA）の患者の意思決定や不良肢位の理解・生活動作獲得を目的とした患者教育ビデオ（以下ビデオ）を製作した。ビデオでは、患者が術後の具体的な生活動作のイメージ化に役立ち、また指導する側にとっても経験年数に関わらず統一した指導が可能となるため、指導ツールとしても活用している。しかし、ビデオを見て「今までにできていたものができなくなる」「あれ見たら怖くなった」と話され、中には不安を強く感じ手術を中止する患者も現れた。その為、術前から肢位制限を受容し、不安の増強なく治療計画に前向きに参画する事を目的とした患者教育 DVD（以下 DVD）を新たに製作し導入後の効果を明らかにした。

## 【用語の定義】

State-Trait Anxiety Inventory (STAI) 日本版状態・特性不安調査：特性不安、状態不安それぞれを 20 項目からなる質問を回答。最高点 80、得点が高いほど不安が強い。日本版ニーチャム混乱・錯乱状態スケール (J-NCS) 1～3 のサブスケール、0～30 点で構成。24 点

以下は軽度または発生初期の混乱・錯乱状態を示唆している。

## 【研究期間】

2010 年 2～9 月

## 【研究対象】

THA を予定している患者。但し、精神疾患や認知症・術前 J-NCS の評価基準で錯乱・混乱がある患者は除外する。

## 【方法】

1. ビデオを見た患者の意見・感想から医師・看護師・理学療法士で検討を重ね、ビデオより不安を増強させられると思われるポイントを検討する。
2. 不安軽減をコンセプトに新たな DVD を作成する；
3. DVD を術前に視聴し STAI と独自に作成した質問用紙を用いてアンケート調査を実施する；さらに、術後 4 日目と 10 日目に STAI を実施し比較する。
4. STAI・アンケート調査のデータを統計学的処理にて分析し、その結果を報告する。

## 「全人工股関節置換術患者に対する術前指導DVDの効果」

旭川医科大学病院  
8階西ナーステーション

清水 直人      大坪 恵美  
佐藤 菜穂美      原谷 俊治  
金 誠治      久保 千夏

### I、はじめに

ビデオを視聴した患者69名中7名(10.1%)  
が実際に手術を中止。

「ビデオを見てこわくなった」などの発言が  
聞かれた。ビデオに不安、恐怖感を助長す  
る要因があるのではないかと考えた。

### II、目的

THA術前教育用DVDを新たに作成し  
導入後の効果を明らかにする。

### III、研究方法①

- 1、研究期間 2010年2月～8月
- 2、対象 初回THA患者9名
- 3、方法
  - 1)DVD作製
  - 2)手術までにアンケートおよびSTAI調査
  - 3)術後4、10日目にSTAI状態不安調査
  - 4)看護記録からの不安言動のデータ収集

### III、研究方法②

4、データ分析方法  
アンケートおよびSTAI単純集計。患者の不安  
言動の集計・分析

#### 5、倫理的配慮

本研究は病院内倫理委員会審査を申請し  
承認を得て実施し、結果の公表は、個人が特  
定できないように配慮し、データは研究終了  
後ただちに破棄した

### IV、結果①

#### 1、DVDについて

- 1)ナレーションは大きく、ゆっくり、聞き取りやすく
- 2)否定する内容を取り除き肯定的な映像
- 3)患者が前向きに考えられるような具体的な映像
- 4)DVD全体の時間の短縮
- 5)生活動作毎のチャプターメニューの作成

#### IV、結果②

##### 2、アンケート結果 (n=9)

DVDに関して

(①その通り、②まあそうだ、③いづらか、④全く違う)

⇒ 映像は見やすい (①7人 ②2人)

声は聞きやすい (①7人 ②2人)

内容は解りやすい (①7人 ②1人 ③1人)

正直不安を感じた (①1人 ③7人 ④1人)

日常生活の理解に関して

⇒全体的にわかったと回答

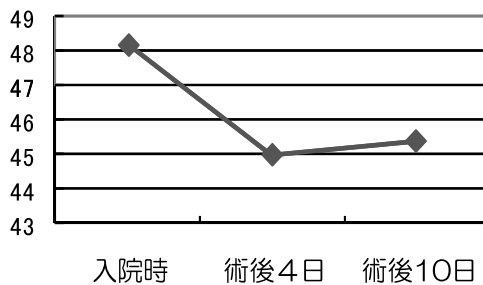
#### IV、結果③

##### 3、STAI

	特性不安 術前	状態不安 術前	状態不安 術後 4日目	状態不安 術後 10日目
平均値	47.3	48.2	45.0	45.4
標準偏差	±12.1	±9.3	±11.8	±10.4

#### IV、結果④

STAI状態不安平均得点



#### IV、結果⑤

##### 4、患者の言動

術後早期 日常生活動作に伴う質問や相談が多い

⇒看護師と一緒に練習、相談

退院が近くなるにつれてライフスタイルに合わせて自ら生活を工夫しなければならないという言動が多い

⇒看護師と一緒に練習、相談

#### V、考察①

##### DVD視聴後のアンケート結果及びSTAI結果

- わずかな不安に留まっている・患者の言動  
術後4日目状態不安の減少  
⇒過度の不安は出現していない

- 内容の理解についても  
日常生活動作獲得に効果的

⇒看護師との練習・質問への対応が  
不安軽減・動作獲得につながった

#### V、考察②

- 基本的な日常生活動作獲得の悩み  
⇒退院後の生活の悩みへ問題の焦点が移行

↓  
前向きに治療計画の参画を示唆

⇒悩みの段階に合わせた看護師の介入により  
さらに治療計画の参画を促進

↑  
看護師の指導・相談が重要

## VI、結論



- 1、DVDは過度な不安を与えてない。
- 2、DVDは日常生活動作獲得に有効であった。
- 3、DVD視聴、看護師の介入は患者自らの治療計画の参画を促す。

## VII、参考・引用文献



- 1) 原作者Spielberger, C. D・構成者水口公信・下仲順子・中里克治、日本版STAI状態・特性不安検査State-Traite Anxiety Inventory使用手引、三京房、P1、1991
- 2) 篠原清美・及川順子、整形外科患者の術後不安の変化—術後離床期・退院前・退院後の比較—、第37回日本看護学会論文集(成人看護I)、P58~60、2006